

## 藤家委員長の海外出張について

平成 15 年 12 月 2 日

### 1. 出張先

アメリカ合衆国

### 2. 出張期間

平成 15 年 11 月 15 日 (土) ~ 27 日 (木)

### 3. 渡航目的

アメリカ合衆国ニューオリンズで開催される G l o b a l 2 0 0 3 に出席し、我が国やアジアにおける将来の原子力の役割に関して講演を行うと共に、核燃料サイクルと高速炉に関する国際ワークショップに出席する。

また、ワシントン D C で開催されるサンタフェ・エネルギーセミナーに出席し、我が国の原子力政策や革新炉に関して講演を行うとともに、米国原子力関係要人と原子力開発に関する議論を行う。

### 4. 主要日程

11 / 15 (土) 日本発 ニューオリンズ着

16 (日)

| G l o b a l 2 0 0 3、核燃料サイクルと高速炉に関する国際ワークショップ出席

21 (金) ニューオリンズ発 ワシントン D C 着

22 (土)

| サンタフェ・エネルギーセミナー出席

25 (火)

26 (水) ワシントン D C 発

27 (木) 日本着

### 5. 結果概要

#### (1) G l o b a l 2 0 0 3 について

アメリカ、フランス、日本から閉じた核燃料サイクルの推進が重要である旨の同じ方向を示す講演が行われた。

また、マサチューセッツ工科大学 ( M I T ) から最近出された、今後 50 年は直接処分 ( ワンス・スルー方式 ) が最良の選択との報告に関する討論が行われ、これに

対する多くの反論が出された。MITの教授の一人も必ずしも賛成ではないような発言があり、また、フランスも反対であった。さらに、遠藤委員長代理と植松元動燃副理事長のMIT報告への共同コメントも言及された。

(2) サンタフェ・エネルギーセミナーについて

サンタフェ・エネルギーセミナーは、日米の原子力関係者が率直に語り合うセミナーであり、今回で5回目となる。日本の抱える東電の不正事件以来の信頼回復への努力、自由化に対する取組み、核燃料サイクル政策などが話し合われた。また、アメリカは第4世代炉、先進核燃料サイクル政策などブッシュ政権の原子力政策について強い姿勢が示された。

以 上